



市街地活性化

# 市民目線で魅力向上

## 青森市協議会 慶大と共同事業開始

中心市街地の魅力を探る市民委員会

市民の目線で中心市街地の魅力を考える「青森市まちなかマーケティング市民委員会」の発足会が十六日、青森市内で開かれた。商店街やNPO関係者らでつくる市中心市街地活性化協議会が設立し、慶応大コ・モビリティ社会研究センター（川崎市）が事業に協力する。

プロジェクトは暮らしやすさを働きやすさ、商売のしやすさを「生活価値」と名付け、青森市の中心市街地の価値向上を目標とする。

具体的には、市民委員会が二〇〇七、〇八年度の二カ年でアンケートや話し合いなどを通して生活価値を数値化し、誰もが居心地良く感じる市街地のモデルを検討する。慶大側は、最先端の情報通信技術を活用した仕組みづくりを提案する。

発足会には約三百人が参加。共同代表に、商店主でつくる「青森市街づくりあきんど隊」の工藤健さんと、県男女共同参画センターアピオあおもり副館長の小山内世喜子さんが選ばれた。工藤さんは「市民の考えをまちづくりのヒントにしたい」と抱負を語った。

本記事は河北新報社の著作物であり、無断転載を禁じます。